

2019年度 看護統合実習

単位 必修2単位

履修条件

3年次学外実習科目単位をすべて取得しておく。

特例措置として未履修実習科目が1科目2単位以内の場合は履修することができる。

※ 2015年度入学生以前は入学年度の学生便覧に従う。

位置づけ

看護統合実習は、各領域の実習を履修したのちの最終の臨床実習であり、主体的な実習姿勢が求められる。これまでの実習で修得した知識・技術・態度を活用し、より高い看護実践能力を養うために、組織の概要、看護職と他職種との役割と連携の実際を理解し、複数の対象者への看護実践を通してチームケアの実際を学ぶ。

実習目的

1. 組織の機能を知り他組織・他職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する。
2. チームの中で複数の対象者・家族への看護を実践する。
3. 自己の看護観と今後の課題を明確にする。

実習目標

各領域でその専門性や場の特徴を踏まえた目標を展開する。

学習内容：組織の概要理解、看護チームの役割、複数の対象者のケアのマネジメント、リスクマネジメント、ヒューマンエラー防止、シームレスケア、リーダーシップ・メンバーシップ、専門職としての倫理的行動

実習期間および実習時間

実習期間：2019年 7月 1日（月）～ 7月12日（金）

実習時間：原則8時30分～16時(実習施設により異なる)

実習施設および学生配置 学生配置表参照

実習方法

1. 臨地実習日は、6日以上とする。
2. 学生は各領域の実習目標・実習計画に沿って実習を行う。
3. カンファレンスは原則毎日30分行い翌日の実習につなげる。最終カンファレンスは、臨地指導者・教員を交えて行う。
4. 最後の2日間は学内でまとめを行う。2日目は全領域での学びの共有を行うために発表会を行う。

実習記録 所定の記録様式に従って記録する。

評価方法

実習評価表に基づき、評価をする。評価点の60点以上を合格とし、科目責任者が単位を認定する。

実習目的

1. 組織の機能を知り、多組織・多職種との連携とチームケアの実際を学び、看護の役割を理解する。
2. チームの中で複数の対象者・家族の看護を実践する。
3. 自己の看護観と今後の課題を明確にする。

実習目標

1. 複数の患者に対するケアのマネジメントを理解し、責任をもって看護を行うことの必要性を理解する。
 - 1) 複数の患者を受けもち、患者情報を収集し、患者に必要な看護を計画立案し、担当看護師と調整する。
 - 2) 複数の受け持ち患者に対して看護実践の優先順位を立てる。
 - 3) 病棟の看護計画を基に自分のタイムスケジュールを立てる。
 - 4) 看護実践の前に、看護計画の内容、タイムスケジュール、看護実践の優先順位についてリーダー看護師に報告・連絡・相談をする。
 - 5) メンバーシップに基づいて受持ち患者の看護を実践する。
 - 6) 看護の実践中や実践後に患者状態や看護の実践結果、評価をリーダー看護師に報告する。
2. 看護チームの役割と機能を理解する。
 - 1) メンバー看護師、リーダー看護師、看護師長の役割と機能を知る。
 - 2) 看護が継続して24時間提供されていることを理解する。
 - 3) 患者のケアが多職種と協働で行われていることを理解する。
 - 4) チーム医療における看護職の役割を理解する。
3. 病院組織、看護部組織の概要を知る。
 - 1) 病院組織の概要と理念を理解する。
 - 2) 看護部組織の概要と目標による管理について理解する。
 - 3) 看護部の教育理念にあった看護師育成のための仕組みについて知る。
4. ケアに際してのヒューマンエラー防止の必要性を理解する。
 - 1) 起こしやすいヒューマンエラーを理解し行動する。
 - してはならないこと（誤人、誤薬等）
 - しなければならないこと（転倒転落防止、褥瘡防止、院内感染防止）
 - 2) ヒューマンエラーを起こしやすい状況について理解し行動する。
 - 3) ヒューマンエラーを防止するための具体的な方法について理解し行動する。
 - 4) ヒューマンエラーを起こした場合の対処方法を知る。
 - 5) 医療事故防止のための組織的な取り組みやシステムを知る。
5. 専門職として、看護倫理に基づいた行動をする。
 - 1) 患者の価値観を考慮し患者を尊重した言葉かけや対応をする。
 - 2) 患者のプライバシーに配慮する。
 - 3) ケアの必要性について説明する。
 - 4) 患者の看護に責任をもち、報告・連絡・相談をする。
 - 5) 自分のできることできないことを判断し行動する。

実習期間

2019年7月1日(月)～7月12日(金)

実習施設

熊本赤十字病院、熊本大学医学部附属病院、公立玉名中央病院、済生会熊本病院（50音順）

実習時間

実習時間：原則8時30分～16時(実習施設により異なる)

実習方法

1. 看護統合実習のオリエンテーションを受ける。
2. 受持ち患者は2人とし、原則として実習期間中は同じ患者を受け持つ。
3. 実習1日目に臨地で同意を得て受持ち患者を決定し、情報を収集する。
4. 実習2日目は学内とする。受持ち患者の病態・健康の段階・治療・看護について理解した上で、収集した情報をもとに看護計画を立案する。看護計画に基づいて翌日のタイムスケジュールを作成する。
5. 実習3日目は臨地で朝から受持ち患者の状態を確認し、看護計画を修正する。さらに受持ち（プライマリ）看護師の立案した看護計画と照合し、再修正を行う。
6. 実習3日目以降からメンバーシップの実習、リーダー看護師と看護師長の役割を学ぶリーダーシップ実習、看護管理者実習を行う。
7. 看護部長の講話を聴講する。(病院組織概要、看護部組織概要、目標による管理、人材育成、医療事故防止・感染管理・褥瘡管理・退院支援のための病院や看護部での組織的な取り組みやチーム医療)
8. 看護師長から病棟管理について説明を受ける。(病棟概要、看護体制、看護方式、病棟でのリスクマネジメント、退院支援、目標による管理、スタッフ教育)
9. 病棟のチームカンファレンスや回診に参加する。
10. デイリーカンファレンスは、臨地指導者・教員を交えて毎日30分行い翌日の実習につなげる。最終カンファレンスは最終日に臨地指導者・教員を交えて60分行う。
11. 最後の2日間は、グループワークと発表会を行い学びの共有を行う。
12. 課題レポートを作成し、最終日の指定の時間までに実習記録を提出する。

実習展開

実習展開（p7）参照

評価方法

評価表（様式6）に基づき実施する。

1. 配点：実習目標の実践内容および態度90%、発表10%。
2. 臨地：実習における毎日の実習記録（その日の実習目標に沿った実施および分析）、課題レポート、発表会報告書。

提出記録用紙（以下の順に綴じる）

1. 看護統合実習評価(様式6)
2. 課題レポート(様式5)
3. 全体発表資料(フォーマットなし)
4. 受持ち患者情報およびアセスメント(様式2)
5. 看護計画(様式3)
6. タイムスケジュール(様式4)
7. 実習記録(様式1)

参考資料

1. タイムスケジュール記入例（資料1）
2. 役割による業務内容と視点の違い（資料2）
3. 看護統合実習における看護技術（資料3）
4. 看護統合実習における看護技術レベル（資料4）

用語の説明

*看護ケアのマネジメントとは

対象者が受けるすべてのケアをマネジメントすることである。すなわち、対象者の状態を目標に近づけるために、すべての資源を活用し、看護職のみならず医師や医療関係従事者などの提供するサービスも含めて確認・評価・調整することである。（上泉和子著. 看護管理. 医学書院. 2018. p 16参照）

*ヒューマンエラーとは

人間がおかす間違いをいう。看護現象にあてはめると看護業務上要求されている行為から逸脱した行為。つまり、するべき行為を忘れてたり、間違いや不適切な行為をすることを意味する。（川村治子著. 医療安全. 医学書院. 2018. p 2参照）

*チーム医療とは

患者のケアの質の向上を目的に、医師、看護職、薬剤師などさまざまな専門性を持つ医療従事者が情報を共有し、意見交換して、治療方針の決定や実際のケアの提供にかかわっていくことである。（上泉和子著. 看護管理. 医学書院. 2018. p 42参照）

*目標による管理とは

目標を設定し、その目標を達成すべく、成果に向かって何をすべきかを自分自身で考えながら仕事を進めていくマネジメント手法。管理者と個人が合意のうえで個人の目標を設定し、それに対して一定期間ごとに（年2～3回）達成度を評価する。管理者は、個人が自分で自分の実践や行動を管理し、自己統制しながら目標の達成を目指して仕事を進められるように支援し評価する。（中西睦子著. 看護サービス管理. 医学書院. 2013. p 35参照）

実習展開

実習日	場所	午 前	午 後	内容	
1	7/1 (月)	臨地	病棟リエゾン 受持ち患者への挨拶・同意 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟リエゾン（看護体制・方式、特徴） ・2人の受持ち患者の同意を得る ・2人の受持ち患者の情報を収集 	
2	7/2 (火)	学内	2人の受持ち患者の看護計画立案 翌日のスケジュール作成	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の受持ち患者の看護計画立案 ・翌日の行動計画とタイムスケジュール作成 	
3	7/3 (水)	臨地	看護計画修正 受持ち（プライマリ）看護師の計画と照合 メンバーシップ（複数受持）実習	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者看護計画修正、受持ち（プライマリ）看護師の計画と照合、優先順位確認、ケアに必要な物品の確認を行う ・担当看護師と受持ち患者のケアを行う。学生の受持ち以外の患者のケアも担当看護師とともに行う 	
4	7/4 (木)	臨地	メンバーシップ（複数受持）実習	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主体で受持ち患者のケアを行う。当日の担当看護師の指導を受ける。リーダー看護師にも報告する 	
5	7/5 (金)	臨地	リーダーシップ 観察実習 or メンバーシップ 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ 実習は、リーダー看護師についてチームリーダーの役割について学ぶ 	
6	7/8 (月)	臨地	リーダーシップ 観察実習 or メンバーシップ 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤看護師への申し送りにも参加する 	
7	7/9 (火)	臨地	看護管理 観察実習	看護部長講話	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理者実習は、看護師長役割（病棟での看護サービス管理、感染管理、褥瘡管理、退院支援、スタッフ育成、目標管理等）について師長に同行し看護管理の実際を学ぶ。金・月・火の都合のよい日に実施する ・チーム医療について可能ならば病棟でのチームカンファレンス・回診に参加する ・看護部長の講話（施設によって日程に変更あり）
8	7/10 (水)	臨地	メンバーシップ 実習	最終カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主体で実施 ・最終カンファレンス ・その後グループごとに全員でまとめ
9	7/11 (木)	学内	課題について話し合う 全体発表の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・実習評価をグループで行い、体験を通しての学びを共有する。発表準備 	
10	7/12 (金)	学内	全体発表	まとめ 記録提出	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表を行い、学びを共有 ・実習記録作成/自己評価/記録整理 ・14:40迄に担当教員へ実習記録を提出

実習目的

1. 組織の機能を知り多組織・多職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する。
2. チームの中で複数の対象者・家族の看護を実践する。
3. 実習における学びを考察し自己の看護観と今後の課題を明確にする。

実習目標

1. 複数の対象者に対するマネジメントが理解できる。
2. 領域実習の学びをもとに看護の継続性が理解できる。
3. 実習を通してチームの役割と機能が理解できる。
4. 対象者に必要な職種間連携の実際が理解できる。
5. ケアに際してヒューマンエラー防止の必要性和工夫が理解できる。
6. 看護倫理に基づいた行動ができる。

実習期間及び実習時間

期間：2019(令和元)年 7月1日(月)～12日(金)

時間：1限～4限の時間の範囲内 *期間および時間は、実習施設により異なる。

実習施設：実習施設一覧表参照

実習方法

1. 配置された施設の概要を把握し実習に臨む。
2. 臨地実習日は、実習展開を参照する。
3. 複数の利用者を受け持つ場合は2～3人（同室の範囲）までとし、原則として実習期間中は同じ対象を継続して受け持つことが望ましい。
4. 受持利用者については臨地の実習指導者の選出したリストから学生が決定し、同意は臨地の実習指導者を通して確認する。
5. 臨地実習初日は施設で立案されている看護計画に基づいて実習する。2週目は自らが立案した看護計画に添って受持利用者の看護を実施する。
6. 可能ならば、施設ケア責任者の説明（施設組織概要、看護部・施設ケア組織概要、目標管理、人材育成、事故防止のための組織的な取り組み）を受ける。
7. 可能ならば、施設看護の説明（入所施設概要、看護体制、入所棟でのリスクマネジメント、多職種連携）を受ける。
8. カンファレンスは、臨地の指導者を交えて毎日30分程度行い翌日の実習につなげる。
最終カンファレンスは臨地実習最終日に行う。
9. 最終日は学びの共有を行う。

実習展開

1. 学生は看護統合実習の共通の目的と、老年看護学領域での目的・目標を理解し、それに添って、主体的に実習できるようにすること。
2. 学生は老年看護学領域の自己紹介書に必要事項を記入し、受持利用者選定に役立てること。
3. 以下の展開例をもとに実習施設において、実習スケジュールを組み立てること。

<実習スケジュール>

日付	曜日	実習内容	
7/1	月	午前：領域オリエンテーション	午後：臨地オリエンテーション
7/2	火	学内日	
7/3	水	見学実習	・各実習施設で可能な内容を計画
7/4	木	・師長・主任等管理職の業務(1日)	
7/5	金	・リーダーの業務 (1日)	
7/8	月	・在宅支援部門等との連携 (1日)	
7/9	火	・各勤務帯の役割とケア把握	
7/10	水	複数利用者への援助実施(3日)	
7/11	木	学内まとめ	
7/12	金	発表・記録提出(14:30)	

*臨地オリエンテーションの開始時間は実習施設による異なる。要確認。

評価方法 看護統合実習（老年）評価表に基づき評価する。

評価基準

5点	実施
5	根拠に基いた理解（説明）ができ、常に自立し正確に実施できる
4	根拠に基いた理解（説明）ができ、自立し正確に実施できる
3	根拠に基いた理解（説明）ができ、殆ど自立しているが一部正確性に欠ける
2	根拠に基いた理解（説明）および自立した実施が一部しかできない
1	根拠に基いた理解（説明）が一部できるが、自立して実施できない
0	根拠に基いた理解（説明）および自立した実施ができない

実習記録

- ・記録様式は、大学のホームページから各自印刷し、使用すること。
- ・記録様式1については手書きとする。公文書に准ずる扱いのため、修正液の使用は不可。ただし、鉛筆書きは可。その他の記録様式についてはパソコン・手書き、どちらでも可。

提出記録

1. 表紙
2. 看護統合実習（老年）評価表
3. 実習記録(記録様式1)
4. 実習記録(記録様式2-1・2-2)
5. 看護統合実習での学び(記録様式3)
6. 受持利用者の看護過程記録(介護老人保健施設では老年看護学実習Ⅰ・介護老人福祉施設では老年看護学実習Ⅱ・小規模多機能施設はどちらかを選択)

実習目的

1. 組織の機能を知り他組織・他職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する
2. チームの中で複数の対象者・家族への看護を実践する
3. 自己の看護観と今後の課題を明確にする

実習目標

1. 病棟・対象者マネジメントを理解し、組織マネジメントを学ぶ
2. 看護チームの役割と機能が理解でき、看護チームの一員として行動できる
3. 複数対象者への看護が経験できる
4. 自己の看護を振り返り今後の看護について考えることができる

実習期間 2019年7月1日（月）～ 平成30年7月12日（金） 計10日間
（ただし、7月1日の移動時間分の事前指導を別日に行う）

実習施設 熊本赤十字病院 こども医療センター
くまもと芦北療育医療センター

実習方法

1. 事前指導後、施設・病棟の概要について調べ受持ち患者の概況（疾患、治療、看護等）を把握し、看護計画立案を行う
2. 受持ち患者は原則2人とし、必要があれば同意書をとる
3. 臨地実習初日に受持ち患者の情報（検査・治療内容や指示等）を収集し、翌日の看護計画とタイムスケジュール作成、優先順位の確認、ケアに必要な物品の確認を行う
4. 看護師指導の下、複数対象者へのケアにあたる
5. 担当看護師へ報告、チェックを受けた後にリーダー看護師に報告する。複数患者に対するケアのマネジメントと医療事故予防のための実践を具体的に学ぶ
6. 臨地実習のうち1日はリーダー看護師に同行し、その役割について学ぶ
7. 臨地実習のうち半日以上は病棟看護師長に同行し、その役割について学ぶ
8. 看護部より施設組織、および看護部組織の経営管理について、事故防止等のための施設全体に亘る組織的な取り組みについて学ぶ
9. カンファレンスは、臨地指導者を交えて毎日30分程度行い翌日の実習につなげる。最終カンファレンスは、最終日に臨地指導者・教員を交えて30分程度行う
10. 臨地実習は、10日間のうち7.5日とする
11. 実習10日目の学内日は、学生のプレゼンテーションによる振り返りと学びの共有の場とする
*個人の課題については、リフレクションシートにより明らかにする
12. 原則として、記録物は毎日担当教員と臨地実習指導者へ提出する

評価方法

1. 出席： 実習日の2/3以上で評価の対象となる
2. 配点： 実習内容 50%、 実習態度 20%、 記録物 20%、 プレゼンテーション10%
3. 記録： 臨地実習における毎日の実習記録、カンファレンス記録、リフレクションシート

実習展開

週	実習日	日時	曜日	場所	午前	午後	内容
	1	未定		学内	事前指導		患者情報から事前学習 (疾患・治療・看護)
第1週	1	7/1	月	学内/ 臨地	事前学習	<移動>	実習① 実習挨拶/情報収集/アセスメント/看護計画立案
	2	7/2	火	臨地	施設全体管理における看護職の役割 /実習②		看護管理者より施設及び看護部 組織と経営管理について学ぶ
	3	7/3	水	臨地	病棟管理実習① /実習③		病棟師長に同行し役割を学ぶ
	4	7/4	木	臨地	病棟管理実習②		チームリーダー看護師に同行し 役割について学ぶ
	5	7/5	金	臨地	実習④		担当看護師指導の下、複数対象者の ケアに当たる
第2週	6	7/8	月	臨地	実習⑤		学生が主体となり複数対象者の ケアにあたる
	7	7/9	火	臨地	実習⑥		担当看護師指導の下、リーダー看護 師へ報告する
	8	7/10	水	臨地	実習⑦ 最終カンファレンス		学びの振り返りと共有、卒業時到達 度チェック表入力
	9	7/11	木	学内	まとめ	プレゼンテーション 資料作成	リフレクションシート作成/自己 評価 /記録提出
	10	7/12	金	学内	プレゼンテーション/振り返り/ 記録提出		

*施設全体の経営管理および、病棟管理実習①②は、
施設病棟の状況に合わせて 7月2日～7月5日 のいずれかに行う。

提出記録用紙

1. 実習評価表 (小児看護学領域) 様式 1
2. 看護統合実習施設・病棟管理実習記録 (小児看護学領域) 様式 2
3. 看護統合実習タイムスケジュール記入用紙 (小児看護学領域) 様式 3
4. 看護統合実習臨地カンファレンス記録 様式 4
5. 看護統合実習リフレクションシート (小児看護学領域) 様式 5

I. 実習目的

1. 組織の機能を知り多組織・多職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する。
2. チームの中で複数の対象者・家族の看護を実践する。
3. 自己の看護観と今後の課題を明確にする。

II. 実習目標

1. 複数の患者に対するケアマネジメントを理解し、責任をもって看護を行うことの必要性を理解する。
 - 1) 複数の患者を受け持ち、患者情報を収集し、患者に必要な看護を計画立案し、担当看護師と調整する。
 - 2) 複数の受け持ち患者に対して看護実践の優先順位を立てる。
 - 3) 病棟の看護計画を基に、自分のタイムスケジュールを立てる。
 - 4) 看護実践の前に、看護計画の内容、タイムスケジュール、看護実践の優先順位について、リーダー看護師に報告・連絡・相談をする。
 - 5) メンバーシップに基づいて受持ち患者の看護を実践する。
 - 6) 看護の実践中や実践後に患者状態や看護の実践結果、評価をリーダー看護師に報告する。
2. 看護チームの役割と機能を理解する。
 - 1) メンバー看護師、リーダー看護師、看護師長の役割と機能を知る。
 - 2) 看護が継続して24時間提供されていることを理解する。
 - 3) 患者のケアが多職種と協働で行われていることを理解する。
 - 4) チーム医療における看護職の役割を理解する。
3. 病院組織、看護部組織の概要を知る。
 - 1) 病院組織の概要と理念を理解する。
 - 2) 看護部組織の概要と目標による管理について理解する。
 - 3) 看護部の教育理念にあった看護師育成のための仕組みについて知る。
4. 看護に際してのヒューマンエラー防止の必要性を理解する。
 - 1) 起こしやすいヒューマンエラーを理解し行動する。
 - してはならないこと（誤人、誤薬等）
 - しなければならないこと（転倒転落防止、褥瘡防止、院内感染防止）
 - 2) ヒューマンエラーを起こしやすい状況について理解し行動する。
 - 3) ヒューマンエラーを防止するための具体的な方法について理解し行動する。
 - 4) ヒューマンエラーを起こした場合の対処方法を知る。
 - 5) 医療事故防止のための組織的な取り組みやシステムを知る。
5. 専門職として、看護倫理に基づいた行動をする。
 - 1) 患者の価値観を考慮し患者を尊重した言葉かけや対応をする。
 - 2) 患者のプライバシーに配慮する。
 - 3) 看護ケアの必要性について、患者が理解できる言葉で説明する。
 - 4) 患者の看護に責任をもち、報告・連絡・相談をする。
 - 5) 自分のできることできないことを判断し行動する。

Ⅲ. 実習期間

2019年7月1日(月)～7月12日(金)

Ⅳ. 実習施設

福岡徳洲会病院

Ⅴ. 実習時間

実習時間：原則8時30分～16時

Ⅵ. 実習方法

1. 初日看護統合実習のオリエンテーションを受ける。施設・病棟の概要、受持予定の患者の概況（疾患、治療、看護等）について、事前学習を十分行ってから臨地実習に臨む。
2. 実習2日目に、受持ち患者を2人決定し同意書をとる、情報収集（検査・治療内容や指示等含む）を行い、アセスメントし看護計画を立案する。
受持ち（プライマリ）看護師の立案した看護計画と照合し、修正を行う。
看護計画に基づいて翌日のタイムスケジュールの作成、優先順位の確認、ケアに必要な物品の確認を行う。
3. 看護師指導の下、複数患者に対するケアマネジメントと医療事故予防のための実践を具体的に学ぶ。（メンバーの実習）
4. 臨地実習のうち1日は、リーダー看護師の役割について学ぶ。
5. 看護師長から病棟管理について説明を受ける（病棟概要、看護体制、看護方式、病棟でのリスクマネジメント、退院支援、目標による管理、スタッフ育成）。
6. 看護部より、病院組織と看護管理について学ぶ（病院の理念、看護部理念、目標による管理、人材育成、医療事故防止・感染管理・褥瘡管理・退院支援のための組織的な取り組みやチーム医療）。
7. 病棟でのチームカンファレンスや回診に参加する。
8. デイリーカンファレンスは、臨地指導者・教員を交えて毎日30分行い翌日の実習につなげる。
最終カンファレンスは最終日に臨地指導者・教員を交えて40～50分行う。
9. 最後の2日間の学内日は、グループワークと発表会を行い学びの共有を行う。
10. 課題レポートを作成し、実習記録を提出する。

VII. 実習展開

実習日		場所	午前	午後	内容
1	7/1 (月)	学内	統合実習オリエンテーション 各病棟オリエンテーション	実習病棟の入院患者の特徴 (疾患名や検査・治療当)を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> 統合実習オリエンテーション 各病棟オリエンテーション 受持つ予定の患者の事前学習(病態、検査・治療、看護のポイント)
2	7/2 (火)	臨地	病棟オリエンテーション 受持ち患者への挨拶・同意書/情報収集/看護計画立案/受持ち(プライマリ)看護師の計画と照合/翌日のスケジュール作成		<ul style="list-style-type: none"> 病棟オリエンテーション(看護体制・方式、特徴、病棟の構造、物品の位置、感染管理) 学生2名に対して、2人の受持ち患者の同意を得る。 受持ち患者看護計画立案、受持ち(プライマリ)看護師の計画と照合、翌日の行動計画とタイムスケジュール作成、優先順位確認、ケアに必要な物品の確認を行う。
3	7/3 (水)	臨地	メンバー(複数受持)実習		<ul style="list-style-type: none"> 担当看護師とペアで受持ち患者のケアを行う。学生の受持ち以外の患者のケアも担当看護師とともにを行う。
4	7/4 (木)	臨地	メンバー(複数受持)実習		<ul style="list-style-type: none"> 学生主体で受持ち患者のケアを行う。当日の担当看護師の指導を受ける。リーダー看護師にも報告する。
5	7/5 (金)	学内	メンバーを体験しての学びの共有 及びリーダー実習の予習		<ul style="list-style-type: none"> メンバーの役割について、学びを共有する。 リーダーの役割について、理解を深める。
6	7/8 (月)	臨地	リーダー実習	メンバー実習	<ul style="list-style-type: none"> リーダー実習は、リーダー看護師についてチームリーダーの役割について学ぶ。 夜勤看護師への申し送りにも参加する。 午前と午後でリーダー実習の情報共有を行う
			メンバー実習	リーダー実習	
7	7/9 (火)	臨地	看護管理 観察実習	メンバー 実習	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理者実習は、看護師長役割(病棟での看護サービス管理、感染管理、褥瘡管理、退院支援、スタッフ育成、目標管理等)について師長に同行し看護管理の実際を学ぶ。火・水の都合のよい日に実施する。 チーム医療について可能ならば病棟でのチームカンファレンス・回診に参加する。
8	7/10 (水)	臨地	メンバー実習	最終カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> 臨地実習の最終カンファレンスは学生主体で実施 最終カンファレンス(40～50分間) カンファレンス資料は、参加者人数分を印刷
9	7/11 (木)	学内	課題について話し合う。 全体発表の準備		<ul style="list-style-type: none"> 実習評価をグループで行い、体験を通して学びを共有 発表準備を行う。
10	7/12 (金)	学内	全体発表	まとめ 記録提出	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表を行い、学びを共有する。 実習記録作成/自己評価/記録整理 7/12(金)14:40迄に担当教員へ実習記録を提出

VIII. 評価方法

評価表（様式6）に基づき実施する。

1. 出席：臨地4日以上出席により評価の対象となる。
2. 配点：実習目標の実践内容および態度90%、発表10%。
3. 記録：臨地実習における毎日の実習記録（その日の実習目標に沿った実施および分析）、発表報告書。

IX. 提出記録用紙（以下の順に綴じる）

1. 看護統合実習評価（様式6）
2. 課題レポート（様式5）
3. 実習記録(様式1)
4. 受持ち患者情報およびアセスメント(様式2)
5. 看護計画(様式3)
6. タイムスケジュール(様式4)
7. 全体発表資料(フォーマットなし)

X. 参考資料

1. タイムスケジュール記入例（資料1）

用語の説明

*看護をマネジメントするとは

看護に責任を持つ看護職員が対象者に提供されるべきケアを対象者ごとに個別にマネジメントし、提供するケアが常に適切であるように、よりよいものになるようにすることである。対象者の状態を目標に近づけるために他職種の提供するサービスも含めてすべての資源を活用し、確認、評価、調整することである。

上泉和子著. 看護管理. 医学書院. 2010. p 16～17参照

*ヒューマンエラーとは

人間がおかす間違いをいう。看護現象にあてはめると看護業務上要求されている行為から逸脱した行為。つまり、するべき行為を忘れてたり、間違いや不適切な行為をすることを意味する。

川村治子著. 医療安全. 医学書院. 2009. p 2参照

*チーム医療とは

患者のケアの質の向上を目的に、医師、看護職、薬剤師などさまざまな専門性を持つ医療従事者が情報を共有し、意見交換して、治療方針の決定や実際のケアの提供にかかわっていくことである。

上泉和子著. 看護管理. 医学書院. 2013. p 50参照

*目標による管理とは

目標を設定し、その目標を達成すべく、成果に向かって何をすべきかを自分自身で考えながら仕事を進めていくマネジメント手法。管理者と個人が合意のうえで個人の目標を設定し、それに対して一定期間ごとに（年2～3回）達成度を評価する。管理者は、個人が自分で自分の実践や行動を管理し、自己統制しながら目標の達成を目指して仕事を進められるように支援し評価する。

中西睦子著. 看護サービス管理. 医学書院. 2008. p 35参照

実習目的

1. 組織の機能を知り、他組織・多職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する。
2. チームの中で、複数の対象者・家族の看護を実践する。
3. 自己の看護観と今後の課題を明確にする。

実習目標

1. 病院組織、看護部組織の概要を知る。
 - 1) 精神医療施設における病院組織の概要と理念を知る。
 - 2) 看護部組織の概要を知り、目標を設定した管理の必要性について考えることができる。
 - 3) 看護部の教育理念にあった看護師育成のしくみについて知る。
2. 看護チームの役割と機能について理解することができる。
 - 1) 精神科病棟における看護師長、リーダー看護師、メンバー看護師の業務を知る。
 - 2) 看護チームの一員として、メンバーシップに基づいた行動をとることができる。
 - 3) 患者へのケアが、24時間継続して提供されていることを知る。
 - 4) 患者へのケアが、他職種と協働して行われていることを知る。
 - 5) 地域で生活する対象者と家族を支援するための取り組みについて知る。
3. 複数の対象者に対するケアをマネジメントし、責任をもって看護を行うことができる。
 - 1) 精神科病棟において、複数の患者を受け持ち、ケアに必要な情報を収集することができる。
 - 2) 収集した情報をアセスメントし、個々に応じたケアの方向性を考えることができる。
 - 3) プライマリーナースが立案した看護計画を参考にしながら、タイムスケジュールを立てることができる。
 - 4) 複数の受け持ち患者に対して、ケアの優先順位を考えることができる。
 - 5) 看護師が提供したケアの臨床判断について、その意味を理解することができる。
 - 6) 患者の状態やケアの結果について、リーダー看護師に報告することができる。
4. ケアに際して、ヒューマンエラー防止の必要性を理解することができる。
 - 1) 精神科病棟で、起こりやすいヒューマンエラーの特徴を知り、説明することができる。
 - 2) ヒューマンエラー防止のために行われている方法について知り、説明することができる。
 - 3) ヒューマンエラーを起こした場合の対処方法について知り、説明することができる。
 - 4) 医療事故防止のために行われている組織的な取り組みやシステムについて知る。
5. 専門職として、対象者の尊厳を守り、看護倫理に基づいた行動をとることができる。
 - 1) 患者の価値観を考慮し、患者の意思を尊重した言葉かけや対応をとることができる。
 - 2) 患者のプライバシーに、十分配慮することができる。
 - 3) ケアの必要性について、分かりやすく説明することができる。
 - 4) 患者に対するケアに責任をもち、報告・連絡・相談をすることができる。
 - 5) 学生としての自覚を持ち、患者に対して自分ができることとできないことを表現することができる。

実習期間 平成31年7月1日（月）～7月12日（金）

実習時間 実習施設の日勤の勤務時間

実習施設 医療法人信和会 荒尾こころの郷病院
医療法人横田会 向陽台病院
医療法人信和会 城ヶ崎病院
医療法人回生会 山鹿回生病院

実習方法

1. 学生は実習前に事前準備について説明を受ける。
2. オリエンテーションを受け、10日間の計画を立てる。（様式2）
3. 病棟実習では、2名の患者を受け持つ。
4. 受け持ち患者は、病棟指導者及び教員と相談の上選定し、必ず事前学習を行う。
5. 受け持ち患者の情報収集は、病棟での実習初日に行う。（様式3）
6. 収集した情報から、アセスメント・看護の方向性を導き出し、看護計画を立案する。（様式4）
7. 複数患者のケアについて優先順位を考慮し、立案した看護計画をもとに毎日、タイムスケジュールを作成する。（様式5）
8. 実施したケアを振り返り、病棟指導者の看護師としての臨床判断の意味を押える。
9. 看護部長に、病院組織・看護部組織の概要、及び特徴的な取り組み等についての講話を受ける。
10. 看護師長やリーダー看護師に同行し、管理の実際を学ぶ。その際、複数の受け持ち患者のケアについてもタイムマネジメントを考慮する。
11. 学生カンファレンスは、病棟指導者を交えて毎日30分間行う（様式6）。最終カンファレンスについては、看護統合実習のまとめ（様式7）を資料として配布する。
12. 最後の2日間は、大学において個人のまとめと発表会を行い、学びを共有する。
13. 10日間の実習を振り返り、評価基準に沿って自己評価を行う。（様式1）

評価方法

評価表（様式1）に基づき実施

1. 出席：実習施設での実習4日以上出席した学生が評価の対象となる。
2. 配点：実習目標の達成度・発表状況・実習態度等をもとに、総合的に評価する。
3. 記録：事前学習、指定された実習記録、課題レポート等の内容とする。
4. 提出締切：実習最終日の14:40までとする。

評価基準 <4点×25項目>

- 4：助言がなくてもできる
- 3：少しの助言でできる
- 2：ある程度の助言でできる
- 1：全面的な助言が必要
- 0：助言を受けてもできない

実習スケジュール

日程	実習内容	ポイント	
1日目	全体・領域オリエンテーション 事前学習、実習計画、自己の実習動機、目標の確認	・実習の準備、具体的実習計画立案	
2日目	午前 病院・看護部に関するオリエンテーション 午後 病棟オリエンテーション、受け持ち患者決定、情報収集	・具体的な実習計画の調整 ・看護部長の講話 ・受け持ち患者情報収集	
3日目	病棟実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの優先順位 ・治療の効果・意味 ・看護師の臨床判断の意味 ・師長・主任・リーダー業務機能 ・各勤務体の申し送り内容 ・組織、継続看護について学ぶ ・委員会活動の必要性 	
4日目			<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の情報収集を行う ・1日のタイムスケジュールを作成する
5日目			<ul style="list-style-type: none"> ・複数の受け持ち患者に対するケアを行う ・看護師長・(主任)・リーダーと同行する ・臨床講義 (OT, CP, PSW, 医療安全, 各種委員会) ・朝・夕の申し送りに参加する
6日目			<ul style="list-style-type: none"> ・学生カンファレンスを行う
7日目	病棟外実習	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習施設に併設されている社会復帰施設で見学実習、もしくは看護師と自宅訪問に出向く ・多職種連携の実際を学ぶ 	
8日目			<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携、退院支援に関する部署の見学を行う ・訪問看護に同行する ・(デイケア、作業所等)の見学を行う) ・最終学生カンファレンスを企画・運営する
9日目	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生がテーマを決めプレゼンテーションの準備を行う (各自が受け持った事例を発表してもよい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標に沿ってのまとめ ・各学生の学びをプレゼンテーションする。 	
10日目	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生がテーマを決め発表を行う ・実習記録をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の学びを深める 	

提出記録用紙

- (様式0) 表紙
- (様式1) 看護統合実習 (精神看護学領域) 評価表
- (様式2) 看護統合実習計画用紙
- (様式3) フェイスシート
- (様式4) アセスメントおよび看護計画
- (様式5) 毎日の記録
- (様式6) 看護統合実習のまとめ
- (様式7) 学生カンファレンス用紙

在宅看護学領域

2 単位

実習目的

1. 在宅療養者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、高齢化社会における地域の実情を知り、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実際を学び、看護職の役割を理解する。
2. 地域包括支援システムを推進するための医療機能とその役割について、分化と強化、連携、療養移行支援(退院支援)の実際を学び、生活を支える医療・看護について理解する。
3. 安心・安全で質の高い在宅看護を実現するための人材確保、人材育成の実際を学ぶ。

実習目標

1. 地域包括ケアシステムにおける医療機関の役割、チームアプローチ、看護職としての役割と機能について理解できる。
2. 多職種連携と協働によるシームレスケアについて理解を深め、自律・自立支援に向けた看護を理解できる。
3. 24時間・365日の安全・安心を保障する継続看護のシステム、社会資源、経営管理を理解し、生活を支えるケアマネジメントが理解できる。
4. 在宅療養者と家族が可能な限り安楽で充実した生活が送れるように人生の最終段階における意思決定支援、および看取りケアシステムの実際が理解できる。
5. 病院と訪問看護ステーションにおける人材確保、人材育成の現状と課題について理解できる。
6. 地域包括ケアシステムが推進されている社会背景を踏まえ、自己の看護観と今後の学習課題を明確にすることができる。

実習期間

平成31年7月1日 ～ 7月12日 10日間 (学内日を含む)

実習施設

聖ヶ塔病院および訪問看護ステーションのぞみ

新生翠病院および訪問看護ステーションみどり

訪問看護ステーション清雅苑

実習時間

原則8時30分～16時(実習施設により異なる)

実習方法

- 1) 実習期間は常に実習目的／実習目標／自己の学習目標を確認しながら研究的視野を持ち、積極的に行動できるよう心がける。表1を参考にして実習目標を達成できるよう学習を行う。
- 2) デイリーカンファレンスと最終カンファレンスを行い、実習での学びを深める。
 - (1) デイリーカンファレンス
 - ・テーマを設定し、実習目標に関するプロセスの振り返りや他者との意見交換等によって学びを深める。
 - ・展開方法・役割・事前準備等は、学生・臨地実習指導者・担当教員と検討したうえで実施する。
 - (2) 最終カンファレンス
 - ・学生が実習期間に学んだ内容を臨地実習指導者／担当教員と共有し、さらに意見交換や助言を得ることで学びが深めることをねらいとする。
- 3) 実習期間は下記(表2)の日程で、臨地実習指導者や担当教員と相談の上実習を展開する。

表2 実習日程の例

週	日	曜日	実習場所
第1週目	1	月	学内(オリエンテーション)
	2	火	臨地実習
	3	水	臨地実習
	4	木	臨地実習
	5	金	臨地実習
第2週目	6	月	臨地実習
	7	火	臨地実習
	8	水	臨地実習
	9	木	学内(資料作成)
	10	金	学内(学内発表:記録提出)

《 課題レポート 》

- ・様式：A4サイズ(11ポイント40文字×40行)で3枚以内にまとめ、表紙(様式0-1)を付けたものをホチキスで止め2部用意する。
- ・内容：
 - ① 地域包括ケアシステムが推進されている社会背景を踏まえて、実習期間全体の学びから、内容に相応しいサブテーマを設けて論述する。
 - ② ①の内容を踏まえて自己の看護観と学習課題を具体的に記述する。参考文献・引用文献も記載する。

実習評価

実習態度／実習内容／実習記録（課題レポートを含む）／出席状況等を看護統合実習評価表（在宅看護学領域）に基づき総合的に評価する。

実習記録の書き方

1) 実習記録は看護統合実習記録様式一覧を参照して記入する。

看護統合実習記録様式一覧

様式	内 容	記入方法
様式 0-1	記録表紙 「看護統合実習記録」	PCまたは手書き
様式 0-2	レポート表紙 「看護統合実習での学び」	PCまたは手書き
様式 1	自己紹介書	PCまたは手書き
様式 2	日々の実習記録	PCまたは手書き
様式 3-1、2	サービス利用者情報シート	手書き
様式 4	統合実習全体に対する学び	PC
様式 5	健康管理自己チェック表	手書き
様式 6	実習評価表	手書き

注 i : 実習記録類はすべて黒インクを使用すること。

注 ii : 助言を受けて追記する場合は、青インクで記入、又は追記箇所に青で下線を引く。

注 iii : 記入内容の訂正は、訂正箇所に二重線を引き（印鑑は不要）余白に訂正内容を記入すること。

2) 様式 2 は下記看護統合実習における学びを参考にして毎日の記録を作成する。該当する項目以外の実習目標や学びについては学生が考えて記入する。

看護統合実習における学び

1. 訪問看護ステーションについての学び

- 1) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割について理解する。
- 2) 在宅復帰への移行支援において、医療機関との協働や活動について理解する。
- 3) 在宅療養者の生命と健康を護り、自立支援を行うための活動について理解する。
- 4) 災害時における訪問看護ステーションの活動とその役割について理解する。
- 5) あらゆる健康レベルを支えるための地域包括ケアの概念と活動について理解する。

2. 訪問看護ステーションの管理業務についての学び

- 1) 在宅療養を支援する多職種協働における看護管理の役割について理解する。
- 2) 災害発生時の訪問看護ステーションにおける看護管理の機能と役割について理解する。
- 3) 訪問看護師の人材育成や人材管理、課題について理解する。
- 4) 訪問看護ステーションを円滑に経営・運営するために必要な経営的視点について理解する。
- 5) 他の訪問看護ステーションとの連携や政策提言についてどの取り組みなど理解する。

3. 外来実習についての学び

- 1) 病院機能における外来の役割について理解する。
- 2) 外来における安全なケアを提供するための外来看護師のリスクマネジメントについて理解する。
- 3) 地域包括ケアシステムにおける外来看護の役割について理解する。

4. 地域医療連携室についての学び

- 1) 病院機能における地域医療連携室の役割について理解する。
- 2) 地域医療連携における多職種との連携と看護職の役割を理解する。
- 3) 地域医療連携室における院内外の地域資源の活用について理解する。

5. 病棟実習における学び

- 1) 実習病棟の特徴と機能について理解する。(病院組織における位置づけと役割)
- 2) 入院から退院までのケアプロセスにおける看護職の役割について理解する。
- 3) 安全なケアを提供するための病棟看護師のリスクマネジメントについて理解する。

6. 看護管理部門実習についての学び

- 1) 病院における看護部の組織的位置づけと理念、役割について理解する。
- 2) 病院における看護管理部門の役割とリスクマネジメントについて理解する。
- 3) 他部門との協働・連携について理解する。

記録提出

- 2) 実習評価に必要な実習記録物は順番に揃え、指定された期日までに担当教員へ提出する。
 - (1) 実習記録一式(綴): 様式0-1、1、2、3-1、3-2、4、6、0-2、課題レポートの順で2穴用の綴じ具を利用して提出する。
 - (2) 出席表、様式5、表紙を付けた課題レポート一部は別添で提出する。
- 3) 記録提出時間を実習最終日(7月12日)の14:40とする。